

校友会誌



平成 18 年 3 月 9 日

発行

名古屋工学院専門学校校友会
名古屋市熱田区神宮四丁目 7-21

< 第 47 号 >

思い出のわが学生時代

会長 倉田 豊行

私が、母校(名古屋高等無線電信学校)の電波通信科に入学したのが昭和43年同級生は4クラス二百名余り、2年に進級した学生は1クラス減って、3クラス百五十名余りでした。

在学中の昭和44年に校名が名古屋電気通信工学院と改称されました。私の所属したA組は、上級無線通信士国家試験取得クラスで大半が船舶無線通信士(商船など)を希望していました。

新たな発想

校長 小川 明治

我が国の経済は、デフレ脱却の傾向が次第に明確となり、本格的な景気回復に向けて成長を続けていくものと予測されています。雇用環境も改善されてきており、各企業の新規採用意欲の高まりが窺われ、設備投資も底堅く推移し、民需主導で明るく積極的な動きが鮮明になってきました。しかし、私たちを取り巻く社会は、ますます複雑化の様相を呈し、既存の手法だけでは解き明かすことの出来ない多くの問題が出現してきています。基礎的な専門的技能・知識と柔軟

鉄筋の校舎は現2号館のみで、クラス教室は2階建木造校舎で、1年次は1階、2年次は2階でした。

講義を受けた先生方は、第一期同窓会長(現校友会)の西田真人先生(電波法規)、伊藤嘉信先生(電子物理)、内田正三先生(電気通信術)、掛布知伸先生(通信実践)、小林則夫先生(電気計測)、佐久間行也先生(無線機器)、根崎優先生(無線測定)、黒瀬和人先生(無線航法)、木村哲男先生(電気通信術)、長浦留市先生(英語)、会田幸夫先生(電子回路)、山路康貴先生(電子管、半導体)、押村健三先生(保健体育)などで懐かしい先生

で創造的な着想は、ますます有効となるようです。

十八世紀の中頃から始まったイギリスの産業革命当初は、一人の熟練職人が、小さな部品製造から完成品までを担っていました。その後、アメリカにも本格的に産業化の動きは移りましたが、しばらくその流れは続いていたようです。その後、大量生産化へ向けての新しい発想がありました。各種の部品一つひとつ全く同じ形と大きさで統一し、互換性を持たせることでした。今では当然のことのように受け継がれていますが、技術の面においても相互の標準化・整合化は別の意味で重要な課題となりつつあります。自国と他国間で技術の補完性が高まっ

生方の名講義が目につかびます。私は幸いにも、念願の第一級無線通信士(現、第一級総合無線通信士)に合格、船舶無線通信士として勤務。その後、担任であった故内田先生のご紹介で母校に奉職いたしました。昭和43年11月に内田先生により作成された【初期受信練習指導】を令、ひもとき、懐古の念で一杯でございませう。残念ながら、名古屋無線電信学校の創立以来、連綿と続き、全国に名を馳せた無線通信士の養成もGMDSS(全世界的な海上遭難・安全システム)の導入などにより、本年度で幕を引くことになりました。

てくれば、その意味合いも大きくなっていくものと思われませう。

ある企業における研究開発投資の規模とその成果との相関関係は成り立たないケースも少なくないといわれます。企業間、あるいは産学連携で共同開発していく技術開発の形態も進んでいくことでしょう。

社会の構造変化にともなう要請に応じた取り組みの方向性には、常に新しい発想が必要になってきます。

校友会の皆様におかれましては、ますますのご発展とご活躍を祈念いたしますと共に、いつまでも本校を母校として親しみ、ご敬愛していただきたく宜しくお願いいたします。

『自由に描く』

放送学科 平成13年卒 小澤 絵美

私が工學院を卒業して、もう4年になります。私は今、普通に販売員として働 きながら自分のキャラクターでいろいろ なグッズを作って、アート系のフリー マーケットで販売をしています。また、時々絵の仕事が入ったりして、ぼちぼち 活動しています。

毎年文化祭のパンフレットを描かせてもらっており、もう今年で5作目となります。毎年依頼していただいて嬉しく 思っています。毎年9月になると何にし ようか考えるのが楽しいし、自分の絵の 進化がパンフレットを並べると一目瞭 然でとても便利です。実はこのお仕事が無ければ、私は今のよつに絵の仕事をしてい なかったと思います。

私は3歳の頃から絵を書くのが大好きな子で、将来は漫画家になるのが夢でした。それでデザイン科のある高校に入 学したのですが、3年間勉強して行くうち に不器用な私に気づきました。木工や デッサンや製図が全くダメで、私にはデザイン の才能が無いんじゃないかと思 っよつになりました。そんな時出会った のが歌の世界でした。歌を歌っている時 は凄く楽しくて、絵が描けない時の苦し さも忘れられる様でした。それで放送学

科に入学したと言っわけです。もうこんな頃、絵は全く描かなくなっていました。ところが先生が文化祭のパンフレットを描いてみないかと言ってくださ って描いてみました。高校の時に感じた 『絵はこつでなければいけない』と言っ 考えをふりほどいた所、凄く自由な物が 描けてこれだいいんだと思いました。

その辺りからフリーマーケットに自 分の絵を出して売ったり、仕事の依頼が 来たりし始めました。今は国際交流に凄 く興味があって、日本にいる外国の友達 で絵を描いている人に、いろんな情報を 教えてあげるのが趣味になっています。 最近、一緒にお店を出したりもします。

それで来年は絵の修行に、どこか異国 へ一人旅しようと思っています。そして 将来的には、工學院で習ったビデオ編集 の技術で、自分の短編アニメーションを 作ってコンテストに出したいと思っ ています。

工學院で学んだ事は、絵を描く仕事に 戻った今も役立っています。



『メディア教育の一考』

メディア学科 科長 井東 秀樹

今年度から本校に、職制としてメディア 学科が誕生しました。その背景には、 現代の教育界がメディア教育への重要 性を訴えている事があげられます。

我が国では、様々なメディアが市場に 氾濫しています。必需品となったコンピ ュータ、インターネット、携帯電話など です。積極的な実用が必要ですが、そこ にはモラルがなくてはなりません。イン ターネットによる犯罪がある反面、「生 協の白石さん」のような、メディアを通 じた精神的フォローもあります。

使い方により、凶器になったり、生活 の必需品になったりする「メディア」に は、教育が最も必要だと言われます。

本校のメディア教育では、入学した新 1年生に、次の項目を学習させていま す。

- ・メールのマナー
 - ・ウェブの常識
 - ・ウィルスなどのセキュリティ
- まず、若年層に普及している、「メー ルのマナー」から取り組んで頂いていま す。この他の事も追い追ひ学習してい きます。

内容は、「無礼メール」から始まり、 「怪しいメール」などの対応を学習しま す。

ウェブについては、「掲示板の迷惑行 為」、「ネットオークション」、「シェアウ エア」などの常識を理解して貰います。 また、「セキュリティ」では、「コンピ ュータウィルスとその対策」、「不正ア クセス」、「著作権」などを学習します。

ところで最近、ブログ(ウェブブログ、 Weblog)と言われるものが生まれました。 ブログとは、『WebをLogする』とい

う意味で、覚え書きや論評などを加えた ウェブのことです。広い意味では個人の 体験や日記、特定のトピックに関する話 題などのよつな、比較的頻繁に更新され る情報が掲載されるウェブを指します。

またブログは、ビデオ画像を主体とし たり、静止画を配布するものなど、添付 ファイルやイメージを掲載するのが通 例です。

現在、ブログは掲示板より注目度が高 く、犯罪につながり易いので心配してい ます。本校でも新たに、ブログ用のウェ ブ教材やウェブ教科書を用意すべく、検 討をしています。

最先端の物ほど基礎教育が必要であ るという信念から、これからも頑張っ ていこうと、再度決意しました。



平成十六年度

校友会事業経過報告

年月日 事業内容

16・6・11 校友会常任役員会開催

16・6・18 校友会大阪支部総会開催

16・6・26 校友会支部長総会開催

16・7・10 校友会福井支部役員会開催

16・8・27 校友会三重支部役員会開催

16・9・11 校友会沖繩支部総会開催

16・9・21 校友会常任役員会開催

16・9・27 校友会福井支部役員会開催

16・10・13 校友会奨学生に奨学金貸与(5名)

16・10・29 校友会東京支部総会開催

17・2・2 校友会三重支部役員会開催

17・2・18 校友会常任役員会開催

(校友会奨学生追加審査)

17・3・9 校友会賞受賞者決定・授与(28名)

17・3・9 校友会誌「かちめ46号」発行

17・3・15 校友会三重支部役員会開催

17・3・28 校友会誌「二三九通」発送

16・4・17・3 卒業生による在校生への講話

16・4・17・3 校友会館運営

各支部長

および支部連絡先

東京支部長 新川 美浩

五十六年第一部電波通信学科卒
勤務先・警察庁

連絡先・新川 美浩

自宅・千葉県千葉市美浜区高洲

四一四 三〇五

電話・〇四三(二七八)九〇二五

大阪支部長 田邊 和哉

四十七年第一部電子計算機科卒
勤務先・田邊ホールディング調査工業(自営)

連絡先・田邊 和哉

勤務先・田邊ホールディング調査工業(自営)

連絡先・田邊 和哉

勤務先・田邊ホールディング調査工業(自営)

連絡先・田邊 和哉

大阪府茨木市沢良宜西四丁目

一一一 一四

電話・〇七二(六三四)一〇九四

富山支部長 山口 勇

三十四年第一本科学卒

連絡先・山口 勇

自宅・富山県魚津市新宿八二二

電話・〇七六五(二二)二〇九六

石川支部長 坂本 守

五十二年第一部電子工学科卒

勤務先・㈱エフエム石川

連絡先・坂本 守

自宅・石川県河北郡内灘町向栗崎

五九八 一

電話・〇七六(二三七)四五七八

福井支部長 山崎 利治

四十年第一部電気通信科卒

勤務先・北陸通信工業(株)

連絡先・小林 則夫

勤務先・則武エンジニアリング(株)

電話・〇七七六(三六)九三八二

(活動休止中)

三重支部長 瀬崎 雄司

三十七年第一部電気通信科卒

勤務先・進栄電子(株)

連絡先・瀬崎 雄司

自宅・津市野田二 四〇四

電話・〇五九(二三七)二二七九

四国支部長 松浦 正昭

三十四年第一本科学卒

連絡先・松浦 正昭

自宅・香川県綾歌郡綾南町滝宮

一四〇六 五

電話・〇八七八(七六)〇六〇七

沖繩支部長 上原 盛善

四十九年第一部電波通信研究科卒

勤務先・国土交通省大阪航空局

鹿兒島空港事務所

連絡先・上原 盛善

自宅・鹿児島県始良郡加治木町木田

四六三〇 二一

電話・〇九九五(六三)〇九六〇

加治木宿舎三 三〇一

電話・〇九九五(六三)〇九六〇

二十六期校友会常任役員

会長 倉田 豊行

副会長 坂田 和義

副会長 池戸 博行

書記 堀内 豊

会計 石黒 誠

幹事長 伊与田 茂

幹事 井東 秀樹

幹事 根岸 雅巳

幹事 杉村 博行

幹事 村岡 好久

幹事 下里 充

幹事 岩井 敬典

幹事 武田 善之

幹事 土肥 和紀

幹事 木下 幸弘

幹事 隈元 良一

幹事 松田 栄代

会計監査 伊藤 真一

会計監査 内山 長久

相談役 小川 明治

参与 小川 孝

各支部担当

東京支部 池戸 博行

大阪支部 岩井 敬典

三重支部 下里 充

富山支部 土肥 和紀

石川支部 佐々木 昇

福井支部 松岡 昇

四国支部 高須 真人

沖繩支部 堀内 豊



平成16年度 校友会収支決算書(一般会計の部)

収入の部 合計金額 5,896,083 円
 支出の部 合計金額 5,896,083 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	1,572,077	会誌発行費	213,738
校友会活動費	2,324,000	特別会計	380,000
預金利息	6	支部結成維持費	1,244,577
校友会総鑑発刊費より借入	2,000,000	講演会費	0
		援助費	0
		慶弔費	38,200
		備品消耗品費	101,800
		通信交通費	1,665
		校友会賞費	55,692
		会議費	0
		行事記録費	0
		会長交際費	22,000
		校友会総鑑発刊費に返済	2,000,000
		次年度繰越金	1,838,411
合計	5,896,083	合計	5,896,083

平成16年度 校友会収支決算書(特別会計の部)

奨学金特別会計

収入の部 合計金額 33,231,369 円
 支出の部 合計金額 33,231,369 円

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	5,836,564	奨学金貸付金	2,550,000
奨学金返金	2,915,900	貸付繰越金	16,576,500
一般会計から	0	事務・通信費	4,000
預金利息	2,405	次年度繰越金	6,200,869
貸付繰越金	16,576,500	奨学基金	7,900,000
奨学基金	7,900,000		
合計	33,231,369	合計	33,231,369

学園あれこれ 一六

近年、異常気象が、猛暑と極寒・地震と台風、どうなってしまうのか地球は、でも大丈夫。工学院魂で、みんな元気を出して頑張ってるよ。

戦後60年の5月、熱田区神宮界隈に、衝撃が走った。工事現場で不発弾発見、戦争中軍需工場の多かった名古屋には、爆弾の雨が降った。そのうちの一つが未だに眠っていたのだ。

大きさは、長さ180センチ、直径50センチ、いわゆる1トン爆弾。

現場は、工学院のすぐ近く。半径300メートルを封鎖して、無事に処理は終わったが、地下鉄は止まり、学校も一時無人となった。まだまだ眠っているに違いない。

爆弾はともかく、お笑いブームで世間は笑っているが、歯を食いしばって頑張っている人も大勢いる。

さて、工学院の頑張り屋を探してみよう。

工学院には、校舎がいっぱいある。この校舎に、学生たちの夢がいっぱい詰まっている。時代は目まぐるしく進歩して、学科編成も、設備もどんどん変わる。新しい技術を伝授すべく、それぞれの職員が張り切っている。

工学院1号館2階の職員室に、無料のコーヒーマシン(?)が設置された。

忙しい仕事の合間、コーヒーマシンの香りが心を潤す。5号館では、豆から挽いてオリジナルの味わいを楽しむ岩田先生が、キコキコとハンドルを回している。

そういえば、学園祭で教務課の下里先生マスターの喫茶店「シモサン」がオープンした。なかなかの評判だった。味より店の看板が、儲かったかな？

キャリアセンターの伊藤先生は、女性ならではの心遣いで、学生達の就職支援に東奔西走、或る時は厳しく、或る時は優しく、迷える子羊たちを導いてくださる。

そんな伊藤先生が、愛知万博で本校主催のロボット大会のメインキャスターを務められ、同じくキャスターの落語家立川志の吉、立川キウイ氏らとの絶妙の掛け合いで、大会を盛り上げた。プロ顔負けの度胸とトークに、絶賛の拍手が送られ、大会は大成功。

井東先生が、この度ドッジボールの日本公式審判に認定された。学生の不正もジャッジすると、張り切っている。

森下先生は、スケートが大好き。滑るは滑る、スリースイ。

「ミキティ大好き！」思い余って口まで滑って奥様にトリプルびんた。トリプルアクセル以上の最高得点。

1号館では、健康ブーム。毎週8階の体育館で、軽スポーツに励む先生が15人以上いる。最年長の浜本先生を筆頭に多くの面々が汗を流しているが、その中で、武田先生は皆が集まるのが待ちきれず、一人でフットサルのボールを蹴っている。

黄昏時、西日の射す体育館。長い影を落とすその姿は、青春の1ページと、いうより不気味だった。

その8階の体育館に小林先生現る。クリスマスのイルミネーションの飾り付け作業に張切ってやって来た。

安全帯を腰に巻いての作業の途中、何を思ったのか、いきなり腰のヒモを天井のフックに掛け、ぶら下がりはじめた。やはりバナナが大好きだというサルの血が騒ぐのか……。自分では「ミッション・イン・ポツシブル」と喜んで床すれすれを行ったり来たり。

そんな小林先生の秘話をもつ一つ。バナナの匂いに敏感な自慢の鼻の軟骨が左側に曲がっていたらしく、風邪を引くと左の鼻がつまってお困りの様子。そこで、思い切って軟骨を削る手術に踏み切った。

「私、長男だけどシナンです。」と言いながら、これで上の穴も、下の穴も

正常に戻った！と大いに喜んでいて。半年にわたって開催された愛知万博会場に、休日になると決まって現れる堀内先生。

アマチュア無線の万博記念特別局でのボランティアである。世界中の人々と友達になり、さらに国際宇宙ステーションの飛行士と交信するイベントに、天にも昇る感動に心が震えたのはいいが、閉幕した今も、天から感動が降りてこない。もう終わったのに、うつろな目で、空を眺めている。

松岡先生は、ボイスカウトの重鎮を務め、健全なる青少年の育成に身も心も捧げている。自身も昔お世話になったとかで、ロープワークやナイフの使い方、そして人の生きる道を後世に伝えていく。

このところ災難続きの富田先生、台風で隣の家の木が自宅の玄関を直撃、めっちゃめちゃに壊れてしまった。隣との関係を気遣って、怒るに怒れず猫に当たっていた。

災難は続くもので、車で出勤の途中、物陰から急に猫が飛び出して来た。避けきれず道路わきの溝に落ちて車はオジャン。もう、やせる思いで、これを機に、ダイエットに挑戦。やっと100キロを切ったところとか。

やればできるもの。みんな何かを見つけて、頑張ろうよ。(優良可)

「学生は自ら復活を」

『情報通信系の話題を三題』

まず、昨年度からの継承事項でもある就職内定状況だ。景気上昇の局面とは言っても、まだまだ厳しい社会情勢の中、該当の全3クラスが、昨年と同様に目標とする年度内100%を達成できそつだ。本年度も勿論、目標とする優良企業から多数が内定をいただいた。

次に、『工事担任者アナログ・デジタル総合種』の認定講座だ。総務省より認可され、平成12年度から継続する認定講座も今年で6年目に入った。

今年度は、情報通信学科1年生の女性1人を含む全学生が全員取得を目標に頑張っている。この認定講座により、ほぼ6ヶ月間の勉強で有線通信技術者として是非とも欲しい価値ある資格が取得できるようになった。

最後に、ICT Dream Festival 2006の《ICT(情報通信技術) 20年の移ろいゾーン》に、情報通信系学生が、製作・協力で参加する。

これは、平成18年4月7日(金)～9日(日)に、会場は名古屋市中心の栄《オアシス21》。東海情報通信懇談

会及び東海総合通信局等の主催で開催される。かなりの規模で実施される為、学生にとって貴重な体験、活躍の場になりそうだ。
(デジデジ)

『堀川まつり 三十二年ぶりの 大まきわら船復活に尽力』

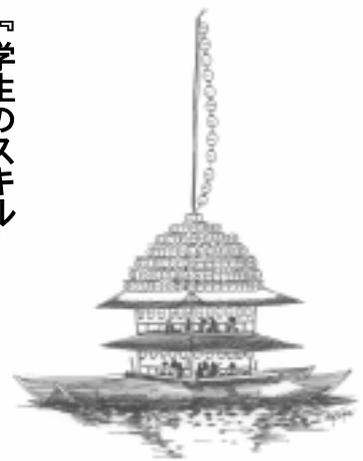
7月30日(土)に第十六回堀川まつりが熱田の宮の渡し公園で開催された。今年度は32年ぶりに大まきわら船が復活した。この製作には放送系の学生が7月からボランティアとして参加し完成に尽力した。

当日の夜7時過ぎに熱田の宮の渡し公園を37個のちようちゃんが灯った大まきわら船が名古屋港のイタリア村に向け出港。イタリア村では花火の歓迎を受けて美しい光景が広がり、製作にかかわったメンバーには感無量の祭り本番となった。

さらに、熱田の宮の渡し公園内ではライブステージを企画運営、また太鼓演奏のPAを担当するなど、地域の人々と交流し、祭りを盛り上げるのに一役買った。

これらの様子は、中日新聞、朝日新聞に取り上げられ、また東海テレビの名古屋市広報番組でも紹介された。このように、昨年からの引き続き放送系は学外での活動が活発に行われている。

(HOUSOU・D)



『学生のスキル』

「ビデオゲーム」は1958年に、米国のウィリアム・ヒギンボーンサムがアナログ演算機とオシロスコープで作ったのが起源とされているが、半世紀たった現在では、老若男女問わず楽しめる文化となった。

工学院には、その文化の開発者になるため数百人の学生が在籍し、プログラム開発やCG制作について学んでいる。クリエイターの技術習得は、思考と試作を繰り返す地味な道のりだが、華やかな作品を結果とすることが出来る。学生が開発したゲームプログラムは、ゲーム産業における世界最大の祭典「東京ゲームショウ」に4年連続出展を続けており、国内外の業界人に作品を発表。そして、スチューデントゲーム大賞では、全国の上位10作品として見事にノミネートされた。

勿論、CG系の学生も負けておらず、

年賀状作成ソフトの素材やカラオケの背景画像制作など、商業用の作品を作る学生は珍しくなく、企業に出向し社員と同等の業務に就いている学生やスカウトされDTPデザイナーのアルバイトを行う学生もいる。
工学院生のスキルは実用レベル。
(トリブルクリック)

『情報処理技術者試験 と特区申請』

「6年連続で高度情報処理技術者試験の合格者輩出！」今年も情報処理技術者試験でテクニカルエンジニアの合格者を出すことができ、無事目標を達成することができた。

情報処理分野の資格といえば、ベンダー資格などのウエイトが大きくなってきたのはいるものの、本丸は国家試験の情報処理技術者試験である。

国家試験のベース部分である「基本情報技術者試験」や「初級システムアドミニストラータ試験」に、少しでも多くの学生を合格させるべく取り組みとしてるのが「特区」申請である。そもそも「特区(構造改革特区)制度」とは、地方自治体や民間事業者の自発的な発案により、実態に合わなくなつた国の規制を見直そうとする日本の政策のことであり、例えば、「学習指導要領によらない授業を行える特区」や

(7)

「株式会社による学校設置を認める特区」などが既に実施されている。現在進めている申請は、基本情報技術者試験と初級アドミニストラータ試験における午前免除の特例措置についてであり、いくつかの制約があるものの、早ければ平成18年4月から施行予定である。

専門学校へ入学した学生の多くは、「資格取得」を目標に掲げており、名古屋工学院としてもこの制度を利用することで、1人でも多くの学生に喜びを与えられるような学校づくりを進めていきたいと思う。(イーキング)

『在学中に電験一種に挑戦』

電気工学研究科の近藤浩文君は、昨年度電験一種を取得。二年間で完全合格する事が出来たことは電気工学科始まって以来の事だ。

さらに今年は電験一種に挑戦！一次試験において3科目合格し、あと1科目で一次試験を突破するところまでとなった。卒業生で電験一種に挑戦した話は聞いたことがあるが、在学生の挑戦者は初めてである。

彼の活躍もあってか、今年の電験三種の合格者数は49名に上り、在校生の取得者数は64名となった。これで12年連続して取得者数50名以上を輩出す

ることが出来た。干支で言えば一回りの年月である。良い実績は、継続すれば伝統となる。頑張っている学生には応援したくなるもの。その環境を作ることに非常に神経と体力を使っている。これからも、学ぶ心に応えられるよう、教職員一同取り組んでいきたい。(デンシエンマン4)

『難関資格を取るには、性格も重要な要素？』

パソコンエキスパート科の加古君は相応な資格マニア。面接で趣味は「と聞かれると「資格取得です」と答えるほど。入学後の1年と9ヶ月間で取った資格数は19個に及んでいる。

中でも圧巻なのは、工学院の学生で過去にわずか1〜2名しか合格していないMOTというインストラクタ資格で、何とWord、Excel、Access、PowerPointの4種類を制覇してしまっただ。その彼が愛用するのは鉛筆。静かな教室で今日も力リカリと彼の鉛筆音が響く。

ITスペシャリスト科では、3名の学生が難関であるシスコのCCNPを取得。

まずは中瀬君。高校時代にCCNAを取得し、入学直後の4月16日にCCNPを取得したという強者。MSを

毛嫌いしているのも特徴。自宅アパートはサーバとルータで埋め尽くされ、電気代は月に数万円とか……。

次に佐藤君。1年生の10月12日にCCNA、2月18日にCCNPを取得。地道にというよりはこつそり努力し資格を取得している。担任が合格を知ったのは何日も後である。なんたる秘密主義か。12月は毎日スーツで登校し、授業後は内定企業で日付が変わるまで仕事をしている。リポビタンDが手放せない日々である。

さらに河島君。1年生の2月にCCNA、2年生の12月にCCNPを取っている。履歴書に書けないほどの資格を持っている。唯一の弱点はデータベース。オラクルマスターを2回受験し、2回とも撃沈してしまった。それ以来彼はデータベースという単語を口にしない。(テンフルチーム)



『愛・地球博でロボット大会』

愛知万博にて特許庁主催の「知的財産が拓く未来の夢」展が5月12日から5月22日のあいだ開催され、その中のロボットコンテストデモンストラーションとして、本校で毎年開催されている「熱田の森ロボット競技会」が選ばれた。

モリゾー・キッコロメッセの広い会場内でホンダやソニー、トヨタの最先端企業ロボットが展示、実演され、多くの見学者が来場する中、競技会を実施することが夢のようであった。

高校生をはじめとした参加者も、大いに張り切り、白熱戦が繰り広げられた。競技会進行を盛り上げるキャスターの落語家立川志の吉・立川キウイさんにも絶賛していただいた。

勿論、本校からも2体のロボットが出場した。一体は、万博のシンボルの一つでもあるマンモスを模した4足歩行ロボットで、その動きは小さいながらもあまりにも本物そっくりなので観衆の目が冷凍状態になってしまった。もう一体は、マスターズレープ式2足歩行ロボットで、頭にちよんまげを載せ、傍らで本校学生の浅野晶夫君の踊る松けんサンバの振りの通りに見事なパフォーマンスを繰り広げ、愛嬌を振りまき、喝采を浴びた。(ロボ吉)

平成十七年度

母校のおもなできごと

昨年3月26日、電波学園前理事長の水野恒治先生がご病気のため永眠された。本校としては喪に服す一年だった。一方、世の中では、中部地方ありと名を知らしめた一年だった。愛知万博開催、中部国際空港開港があった。また今年には世界のトヨタ自動車の本社が名古屋駅前に移転する。技術の集積地としての中部は、日本経済のけん引役となっている。我々も中部の雄を目指そう。

4月8日(金) 入学式
4月11日(月) 始業式
4月17日(日) 情報処理技術者試験
4月21日(木) 第一回・県人会
5月20日(金) 第一回・企業説明会



5月21日(土) 寮対抗球技大会/今年もボウリング大会が行われた。会場は堀田にある名古屋エクスレーンで、白熱したゲームが繰り広げられた。優勝者は明治寮北館の電業技術学科二年の三浦健矢君。

5月22日(日) 工事担任者試験
6月5日(日) 第一種電気工事士筆記試験
6月9日(木) 第二回・企業説明会
6月22日(水) 春季東海地区専門学校テニス選手権大会/男子ダブルスにおいて松本慧君(情報通信学科二年)、早川寛明君(機械CAD設計科一年)のペアが第三位に入賞した。
6月27日(月)~29日(水) 社会研



修会/今年度は、愛知県で万国博覧会「愛・地球博」が開催されていたこともあり、各号館ごとに全学生が博覧会を見学した。トヨタ館や日立館のほか、マンモスが人気だったが、見れたかな？

7月2日(土)~18日(月) 教育懇談会/長野・松本・金沢・飯田・福井・名護・宮古・富山・那覇・長浜・尾鷲・沼津・静岡・高山・浜松

7月14日(木)~8月3日(水) ハイ研修/今年度の引率は情報系の中島修志先生だった。工学院からの参加者は15名であった。一回り大きな大人となって無事帰国した。



7月24日(日) 第一種電気工事士技能試験
7月26日(火) 27日(水) 第一級陸上無線技術士試験
7月28日(木) 29日(金) 第一級陸上無線技術士試験

8月20日(土) 第一種・第二種電気主任技術者試験(一次試験)
8月21日(日) 第二種電気主任技術者試験/今年の電験三種の取得者が64名となり、これで12年連続取得者50名以上を輩出する事が出来た。また、昨年電験二種に合格した電気工学研究科の近藤浩文君は、今年電験一種の一次試験に挑戦して三科目合格となり、惜しくも一次試験突破を逃した。しかし電験一種で三科目も合格するとは、開学以来の快挙である。

9月16日(金)~18日(日) 東京ゲームショウ出展/各ゲームメーカーが自信を持って贈る最新ゲームが勢ぞろいしている展示会であり、この中のゲームスクールコーナーに出展した。マルチメディア系学科のうち、見学希望学生約190人を連れ、最新ゲームを堪能した。



9月26日(月)~29日(木) 第一級第二級総合無線通信士試験

10月1日(土) 第二種電気工事士技能試験(筆記免除者対象)

10月2日(日) 第一種電気工事士筆記試験

10月16日(日) 情報処理技術者試験
今年度はテクニカルエンジニア(ネットワーク)に4名、情報セキュリティドミニストレイタに1名、ソフトウェア開発技術者に11名合格した。これにより6年連続で高度情報処理技術者の合格者を輩出したことになる。これらはコンピュータ業界を中心に非常に評価の高い国家資格である。

10月18日(火) 体育祭/毎年、雨にたたられる体育祭。前日からの雨は降り止まず、準備をしたのに中止となった。今年度の卒業生は体育祭を経験せずに卒業することとなる。悲しい。
10月22日(土) 23日(日) 学園祭/今年のテーマは「磨(みがく)」であった。中部地方は優良企業が多く、技術のレベルは非常に高い。本校の学生に於い



ても在学中に学んだ知識を基に、より良い技術者となるため技術に磨きをかけ社会に貢献して欲しいという願いを込めて付けられたテーマである。

11月3日(木) 第二十回・全日本学生マイクロナウス大会/今年は、竹本隆一君(メカトロニクス研究科)が優勝し、これで9年連続10度目の優勝となった。東京理科大学、東京電機大学、芝浦工大などのマシンが出走したが、それら大学勢を抑えての優勝であった。



11月26日(土) 27日(日) 第二十六回・全日本マイクロナウス大会/世界各地からエントリーがある国際大会である。本校の佐藤先生が日本人としては2番目となる6位に入賞した。全日本学生マイクロナウス大会優勝者の竹本君は16位だった。やはり世界の壁は厚い。

12月2日(金) 3日(土) 第二十回・全国専門学校卓球選手権大会/男子ダブルスにおいて伴信行君(電気工学科一年B組)参加のペアが3位となった。また団体戦でも伴君参加の愛知県Aチームは3位となった。また女子団体では佐藤佑子さん(総合制御システム科二年)参加の愛知県Aチームが準優勝となった。残念ながら今年は優勝旗を持って帰ることが出来なかった。

12月4日(日) 第一種電気工事士技能試験(筆記試験合格者対象)
12月17日(土) 18日(日) 全国専門学校ロボット競技会/自律型ロボット対戦競技・ソフトウェア部門において大久保恵里さん(総合制御システム科二年)が優勝し、文部科学大臣賞を受賞した。



11月20日(日) 第一種・第二種電気主任技術者試験(二次試験)
11月27日(日) 工事担任者試験

1月18日(水) 第二回・県人会
1月26日(木) 27日(金) 第一級陸上無線技術士試験
1月28日(土) 29日(日) 第二級陸上無線技術士試験
3月9日(木) 茶話会
3月10日(金) 卒業式
3月13日(月) ~ 16日(木) 第一級第一級総合無線通信士試験
3月14日(火) 終業式
3月21日(火) 熱田の森ロボット競技会

工学院

五、七、五、
七、七

応募総数48首 教職員の投票により、
23首を決定し、高得票順に掲載した。な
お、多人数の作品を掲載するため、重複
者には遠慮して頂いた。

雨で流れてまともに実施してない体
育祭が、今年で5年連続となった事もあ
り、「体育祭」の首題が多かった。

内定の 喜び語る 学生の

希望あふれる 笑顔に幸あれ

尾上行男

多様化で 学生気質 変われども

育て上げたい より良き人を

真野 雅彦

心から ッタのからまる

我が母校 永久(トワ)に

続けと 我らの願い

武田 善之

万博が 終了しても 大人気!

あやかりたいよ モリコログッズ

吉戸 健朗

体育祭 何処にいるのか 雨男

今年はやるぞ 願い届かず

下里 充

寝坊する 学生起こす

電話する

業務開始は 出勤前

谷口 順一

学園祭 ホームルームに女の子?

俺の彼女と 照れる学生

鈴木 由美子

我々の 仕事は色々 あるけれど

目標一つ 地域一番

大石 建児

コンデンサ 容量表示

読めなくて

学生笑つ 老眼ショック

隈元 良一

台風で 一日休校 やばいッス

これ以上は 休まないでね

荒井 智博

学祭で 懐かし顔に 名前出さず

時の流れに 認知の不安

加藤 穰治

開催を 決めても止まぬ秋雨に

悔しき鶴舞 土のグラウンド

木下 幸弘

クールビズ 外見だけで

意味なさず

設定温度 25度C

荒木 俊行

過ぎ去りし 思い出多き 2年間

さあ明日からは 巣立て未来へ

石黒 英二

雨の中 クラス旗持って仁王立ち

燃える担任 冷めた学生

後藤 政司

体育祭 今年こそはと 決意して

縄飛び練習 本番出来ず

倉田 豊行

電験に三種合格 64

やっぱ天下の 工学院だ

中野 裕史

コンビニに お昼を買いには

行くけれど すべて食べたよ

ニコのラーメン

小林 真治

学生の 夢を託した 新電波

明日を夢みし 教職員

富田 重彰

秋の空 台風迷走 異常気象

体育祭も 自然には勝てず

土肥 和紀

選挙では「刺客」話題の今年でも

我校やはり「資格」で勝負

岩井 敬典

正すため 怒りの仮面

付けてても

心の中では 想いの涙

世古 哲也

バックマン 名刺についた

キヤラクター

ナムコとともに はばたく学園

鈴木 一司



『合同クラス会開催の報告』

幹事代表 堀 清美

六月十一日(土)名古屋市内のメルパルクNAGOYAにおいて、昭和四十四年三月電波通信科卒業の合同クラス会が5年ぶりに開催されました。今までは開催を忘れないようにとオリンピック年の開催としてきましたが、今回は愛知万博が当地で開催されるのに伴い出席の皆さんにも万博を楽しんで頂くとの思いで一年繰り下げての開催となりました。

私達は56〜57歳を主とする団塊世代です。昨今の厳しいビジネス環境の中、その役割も終焉を迎えようとしている状況において28名と多くの皆さんが集まってくれました。

今までに5回の開催を見ましたが、今回はじめて参加される方も多数見え、外観があまりに変化をきたし、思い出すのに苦労する場面もありました。また、集合写真も先生が真ん中に座らなければ見分けが付かないほどに年齢を重ねたことをしみじみと感じ、同時に思わず笑いがこみ上げてくるのは何故でしょう。懇親会は意気軒昂だった学生時代に思いを巡らせながら盛り上がっていました。3時間という短い時間では

36年の空白を埋めることは出来ず、名残惜しく散会となりました。そして、次のオリンピックの年の再開を約束しお別れとなりましたが、ホテルの宿泊組や近隣の参加者は場所を移し、学生時代の延長となり、夜遅くまで話題が尽きなかったようでした。



ご結婚おめでとう

1つあります

次のみなさんは平成十七年一月から平成十七年十二月末までにご祝宴を挙げられました。心からお祝い申し上げます。

(敬称略)
岡本 貴則

4月30日 挙式・名古屋市

粥川 ゆかり

(平成15年3月・音響映像学科卒)

浦川 雄弘 5月21日 挙式・長崎市

(平成5年3月・電波通信研究科卒)

春田 裕介 10月1日 挙式・名古屋市

(平成11年3月・電業技術学科卒)

山崎 貴史 11月3日 挙式・安城市

(平成14年3月・電気工学科卒)

福田 稔修 11月19日 挙式・名古屋市

(平成6年3月・情報処理科卒)

訃報

昨年三月二六日、電波学園前理事長の水野恒治先生がご病気のため永眠されました。

五月二八日には故人の偉業と功績をたたえ名古屋工学院専門学校をはじめ、電波学園グループにおける学園葬が覚王山日泰寺において行われました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

『三重支部の活性を目指して』

校友会三重支部担当 下里 充

校友会三重支部の前身は昭和三十九年九月、同窓生間の親睦を図るとともに本校との連携を密にすることを目的として、三重県志摩郡浜島町に浜島支部が、同窓会支部第一号として発足した。その後、三重県南支部、さらに校友会三重支部へと改称され現在に至っている。

最近 三重支部の活動が停滞気味であった。そこで支部役員から支部総会を開催しようとの声が上がリ、役員会を数回実施した。昨年からは三重支部の担当となった私も、その席に参加させていただいた。

役員会では、日程や会場、さらには其次第や役割分担など事細かに決められ、役員の方々のお骨折りにより着々と準備は進められていった。案内状の表題は支部総会では出席し難いイメージであるから、同窓会としてはどうか。会費を高くすると出席者が減るので、支部から負担して極力安くしたほうがよい。現役員が長年務めているので役員の若返りを図りたいなど意見が交わされた。開催は六月の中旬を予定していたため、案内状を四月に発送した。対象者は新規の参加者を増加させる目的で、三重

県全域で平成元年から四年の卒業生約800名とした。支部役員の出席者予測は最大100名・最小50名であった。

返信締切日を過ぎたある日、役員会の席上で出席予定者が発表された。結果は散々…。今年度の支部総会は見合わせる事になった。

葉書を見ると、丁寧に近況を記入して返信してくれる方、皆さんにお会いできることを楽しみにしているとコメントを添えてくれる方など校友会活動に理解を深めていただいている方も多数あったが、残念なことには返信をしていただけない方もおられた。

在学中に校友会の活動内容をPRできる機会を多くつくらなければ、打開できないのではないかと。現在は校友会賞・校友会奨学制度・校友会誌などで『校友会』という名称を知るのである。しかし、殆どの学生は活動内容を理解していないのが現状である。卒業後に突然、支部総会の案内状を送っても結果は望めないのである。

卒業後10年に的を絞ったのが裏目に出してしまったのか。しかし、年代をいつにしても結果は同じであったのではないかと。三重県は愛知県と隣接していることとあり、在学中の県人会組織が中途半端である。数年前から年に2回南勢志摩地区や東紀州地区のUターン就職希望者を集めて個別面談をするようにした。

た。このよつな機会に在学中での同郷の絆を深め合いたい。

最近の学生は母校に思いを馳せることや友愛も薄れているような気がする。同窓会に出席すれば、学生時代が懐かしく思い出すことができ、再会の喜びを分かち合える。また、そこから思わぬ人脈ができ、仕事が好転して人生が変わるかもしれない。そんなことも期待しながら、参加していただければと思う。

他の支部でも同様であると思うが、最大の課題は若い校友会員の支部活動への参加である。まだまだ課題は山積みであるが、支部発展のため微力ではあるが尽力したい。

「みなさん、校友会支部総会の案内状が届いたら、是非参加してください。」



namco LIMITED

編集後記

一昨年、本校の校長が「カマス」について書いておられた。

カマスと小魚を同じ水槽に入れておくと、カマスは猛烈な勢いで小魚を食べ始めてしまう。そこで、水槽の真中にガラスを入れ、別々にする。カマスは小魚を食べようと突進するが、ガラスに頭を打つて小魚に近づけない。カマスはそのうち諦め、小魚を襲わなくなる。そればかりか、ガラスを取り除いても小魚を襲わず、仲良く泳ぐようになる。

カマスと小魚が平和に過ごしている水槽に、もう一匹のカマスを入れる。すると、新入りのカマスが次々と小魚を襲う。それを見た先のカマスは、元の習性を目覚め、小魚を襲うようになる。

「氏より育ち」、氏素性の良さより、育った環境や教育の方が人間形成に大きく影響するということだ。しかし、「血は争えない」という言葉もある。どんなに良い教育を与えられても、DNAに刻まれている人間性は如何ともしがたい。

教育界は、ダーウィンの進化論に挑戦すべく、DNAをも変える勢いで教育に取り組んでいる。工学院も然り。卒業生の皆様も、現況の向上を図り頑張っていると信じて。(善)

氏より 育ち